

〈はだして泥団子〉



春休みに入り暇を持て余した孫たち4人が庭で楽しそうに遊んでいる。何をしているのかとのぞいてみると、泥団子作りだ。車庫にある砂と、庭の土をミックスしての団子作りに興じている。今までも何度も作ったことがあるので要領は得ている。適度な水分を含んだ土と乾いた砂のバランスが決め手になる。車庫と庭を行ったり来たりしながら、鼻歌交じりに団子を作っている。もうすぐ2歳になるSちゃんも、みんなと一緒に団子作りに参加。丸くするのはとても無理だがどろんこ遊びは大好きで手も足もどろどろになりながら楽しんでいる。暖かい日だったのでみんな裸足だ。孫たちに言わせると、水分たっぷりのベチョベチョの土に乾いた砂をかけると団子になりやすいとのこと。これを何度も繰り返すと少しずつ団子が丸く大きくなっていく。あとは、乾くのを待つだけ。今回は簡易泥団子だ。“ピカピカ団子にしないの？”と聞くと、“ピカピカ団子にするには土から変えないと作れないもん”とのたまう。もういっばしの泥ダンゴ名人だ。



素手で、裸足で土に触れることで彼らは様々な刺激を受けているはずだ。ヌルヌルとかベチョベチョとかいう言葉は触って初めてその感触と言葉とが結び付く。2年生のYちゃんは、ヌルヌルではなく、“ニュルニュル”と表現していた。彼女の中では微妙に違って、その違いが実感として分かるのだ。知り合いの石垣島の子ども達はマングローブの林をいつも裸足で走り回り、素手で魚を捕っていた。きっと都会の子達には分からない感触の宝箱をいっぱい身に着けているに違いない。よし、明日は畑で裸足になろう！